

NUKUMORI

ぬくもり

No.74
2024.10.18発行



宇佐高田医師会病院 供養盆踊り

基本理念

地域医療への貢献
「肌のぬくもりある医療」の実践

基本方針

- 一、 救急医療充実のため、診療連携の強化に努めます。
- 一、 高度医療の実施、チーム医療の推進に努めます。
- 一、 患者様の立場にたった医療サービスの提供に努めます。
- 一、 職員が働きやすく、誇りを持てる病院を目指します。

肌のぬくもりある医療



私達は笑顔を大切にします

宇佐高田医師会病院

〒872-0102 大分県宇佐市大字南宇佐635
TEL.0978-37-2300(代) FAX.0978-37-2307
<http://www.utihp.jp/>



日本医療機能評価機構

CONTENTS

- 新理事長ご挨拶 2
- 下肢静脈瘤レーザー手術のご案内 3
- ドクターのおはなし 4
- 供養盆踊り 6
- 小学校でBLS講習会 6
- 大分県緩和ケア研究会県北支部会発表 7
- 車椅子を寄贈していただきました 7
- ご意見いただきました 7
- 外来担当医師一覧表 8

新理事長ご挨拶



理事長
時枝 正史

平素より宇佐高田医師会病院
ならびに地域成人病検診セン
ターをご利用いただき、誠にあり
がとうございます。このたび新し
く理事長に就任しました時枝正
史でございます。私は郷里の宇佐
に帰って父の跡を継ぎ、今年で24
年になります。これまでは西村正
幸前理事長の補佐役として医師
会病院の運営に関わってきました。

さて、医師会病院は設立から40
年余りが経ちました。それ以前の
宇佐市の医療体制はというと、救
急医療や高度医療を担う病院が
あまりなく、やっかいな状態に
なると離れた地域の病院に行く
か、積極的な治療はせずに様子
みていくかという選択肢しかな
かったと聞いております。医師会
病院ができて高度な医療設備が
導入され、大学からも医師が派遣
されるようになり、地元で受けら
れる医療は飛躍的に発展しまし
た。

現在ではそのような専門的医
療や救急医療に限らず、かねてよ
り予想されている南海トラフ地

震にも備えた災害時の医療、へき
地に対応する医療、それに新規感
染症に対する医療といった公的
な役割をいくつも担っています。
特に今般の新型コロナウイルスで
は、県内で最も多い1,000名
以上の入院患者さんを受け入れ、
ワクチン接種においても備蓄管
理や集団接種に全面的なサポー
トを行うなど、この地域に欠かす
ことができない病院です。検診セ
ンターも宇佐市、豊後高田市の健
診事業の中心的な働きを行って
います。

病院の玄関脇に、『肌のぬくも
りある医療』と書かれた記念碑が
あります。これは初代院長・故
桐田公弘先生の直筆によるもの
で、先生ご自身が入院された折に
看護師の手の温かさに癒されて、
「医療にはこのぬくもりが大切な

んだよ」と病院の朝礼などで話さ
れていたそうです。以来この言葉
は病院の基本理念として、職員一
同心に携えて患者さまの診療に
励んでおります。ただ、やる気は
満々ですが、建物の方は年を取り
少々くたびれてきました。現在建
て替えに向けて着々と計画を進
めているところです。またその折
には器だけでなく、中身の方も充
実できるようリニューアルしま
すので、もう少々お待ちくださ
い。今後とも医師会病院、検診セ
ンターをどうぞよろしくお願
いいたします。



下肢静脈瘤

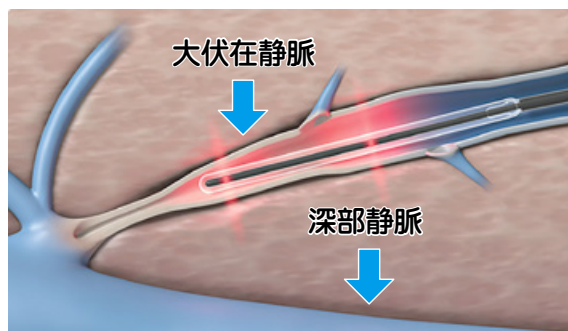
レーザー手術のご案内

当院では、令和6年7月に下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施医（柏木院長）及び血管内治療実施基準による実施施設の認定を頂きました。

9月より、レーザー手術（下肢静脈瘤血管内焼灼術）を開始しましたので、手術の内容や入院についてご案内させていただきます。

手術について

レーザー手術【下肢静脈瘤血管内焼灼術】は先端からレーザー光を照射する細長いレーザーファイバーを静脈の奥に挿入し、内側から熱を加えて静脈を焼き縮めて閉塞させる治療です。焼いてふさがった静脈は血液が流れなくなり、その後半年



下肢静脈瘤血管内焼灼術

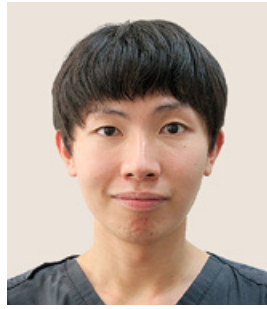
から1年で自然に身体に吸収されます。静脈を抜取る従来の手術に比べて切開の傷が小さいため、体への負担が軽く、低侵襲な治療です。また、再発が少ないこともメリットの一つです。麻酔は、基本的に静脈麻酔で行い、1時間程で終了します。

入院について

入院1日目に手術を行います。術後は手術室で弾性包帯を付け、手術直後から歩行は可能です。翌日、念のためエコーで血栓ができていないかを確認し、弾性包帯を外した後、退院して頂きます。
※日帰り入院も可能です。



正しさとは何か



地域枠医師
加藤 京

私が、同じように事を深掘って語るには力不足かと思えますし、何より説得力に欠けます。

修行中の身であるそんな私が、臨床に向き合い仕事をしていく時に、自身の実践している医療知識や技術が本当に「正しい」のかと、常々疑問を持つことも多いです。そこで今回は今の私の医療への姿勢、そして信念を通じて、私の思う「正しさ」を皆様にお伝えしてみようかと思えます。何かしら気づきをもたらずきつかけになればと思えますので、どうぞお付き合いいただけますと幸いです。

・医療における

「正しさ」とは何か

私たち医師の日常臨床の中での仕事の流れはおおよそ一定で決まっております。まずは患者さんの悩みや症状に対して適切な問診や診察、検査を実施したのち、それらの結果を踏まえて最も妥当と考えられる「診断」をいたします。そしてその「診断」をもとに、各々の医師が「正しい」と思う「治療」を患者さんに提供し、ともに満足のいくゴール地点を探してい

くという流れになります。

しかし、その際に同じ疾患、同じ状態、同じ患者さんであっても、医師によってその発言は千差万別であり、その治療方針から提案内容まで全く以て変わってしまうことは度々ございます。その場合、双方の医師のどちらかが「正しく」、もう片方は「正しくない」診療をしているのでしょうか。結論から申し上げますと、基本的にはよっぽど不勉強な医師でない限りは「正しくない」ことはないはずですが、私たちは自分の威信をかけて患者さんに向き合い、少しでも現状を良くしていきたいという思いがある中で日夜励んでおります。後述いたしますが、「診断」が誤ってさえいなければ「治療」に関しては医学における教科書に相当するものがございまして、大きく間違えることはないからです。

治療の相違の最も大きな原因は「価値観」によるものだと思います。医師も患者さんも、各々違う人生を歩んできておりますので、人それぞれに異なる価値観があります。その二者の間で価値観の相違があれば治療方針に関して軋轢が生まれるのは当然ですから、結局いつの時代も「良い医師」と言われるのは、患者さんの価値観に寄り添い尊重することができ、その方を指すのではないのでしょうか。

以上のように、価値観の尊重が大事だという事を前提とした上で、すべての人間が持つ普遍的な共通の価値観があると考えています。それは「健康的で、苦痛

なく、長生きしたい」という「願い」です。この「願い」を追求することこそ、医療における「正しさ」なのではないかと今の私は解釈しております。

・偉大なる「ガイドライン」と「エビデンス」

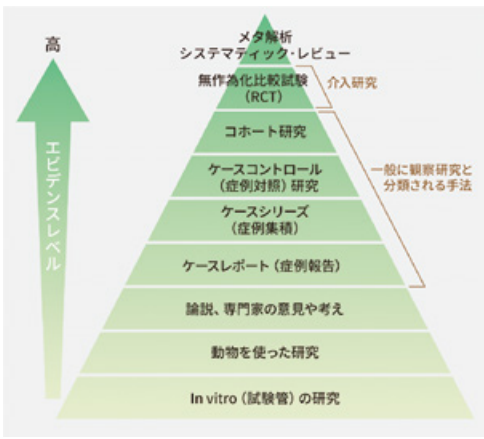
医療はいつの時代も「願い」を追い求め、「正しさ」に近づくために進化しています。その「正しさ」の実践のために多くの医師が活用するのが、ガイドライン（診療指針）と呼ばれるものです。これは病気や疾患群の「教科書」に相当し、全世界の医師が例外なく日々活用しています。このガイドラインですが、世界中のエビデンス（「医学的根拠」とも呼ばれます）豊富な研究結果や事実に基づき、各々専門分野ごとに偉大なる先生方の御尽力で作成されています。当然、「願い」の実現に不可欠な「正しい」医療を提供する上では欠かせないものです。

エビデンスの信頼性を評価する際に用いられるのが「エビデンスピラミッド」と呼ばれる概念です（図1）。このピラミッドはエビデンスの質と信頼性を段階的に表現したもので、上に行けば行くほど信頼性が高いとされます。最上位のシステマティックレビューやメタ解析は多数の研究結果を統合することで結論が導かれるために最も信頼性が高いとされます。エビデンスの強さを考慮して、標準治療（その時代における最も効果が高い

・前書き

皆様こんにちは。令和6年度より宇佐高田医師会病院に赴任となりました、循環器内科の加藤京と申します。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

さて、赴任早々ではございますが、7月に当広報誌『ぬくもり』への寄稿を依頼され、早くも猛暑の過ぎたる8月の終わりに差し掛かって参りました。歴代の先生方が書かれた内容を拝見させていただきますと、どうやら各々の専門分野に関して、その知識や経験を惜しみなく、一般の方々目線でも分かりやすく解説されるが多かったようです。畏れ多くも偉大な先生方と肩を並べて経験の浅い



(図1) エビデンスピラミッドの総体図。
 ちょっと気になる基礎知識「疫学研究」って？
 (https://www.j-milk.jp/knowledge/food-safety/uwasa_ekigaku.html) より引用。



(図2) 『2023年改訂版 冠動脈疾患の一次予防に関する診療ガイドライン』
 “冠動脈疾患”とは心臓を栄養する血管の病気のことです。その発症予防に重要な生活習慣に関しても細かく記載があります。私も日々臨床の中で活用させていただいているガイドラインの一つです。

と考えられる治療法)が大抵の場合はガイドラインに明記されているので、前述したように医師ごとで「治療」を大きく間違えることは考えにくいわけです。

ガイドラインは専門的であるが故に読みづらいものも多いですが、比較的分かりやすいものもあり、日常生活に役立てられる豆知識も得られることが多く、大変興味深く面白いです。学会の運営方針によってはインターネット上でガイドラインを無料公開しているものもございませぬので、興味がある分野があれば是非とも楽しんで読んで頂けたらと思います(図2)。

一方で、エビデンスピラミッドをよく見ると、「専門家の意見や考え」がピラミッドの下層に存在していることにお気づきになられたでしょうか。これはどれだけ経験豊富な専門家であろうと、個人の意見はバイアス(結果を真実から歪

めてしまう要因)に影響されている危険性があり、限定された状況にしか当てはまらない可能性を孕むため、エビデンスピラミッドでは下層となります。しかしながら、最終的に各々の患者さんに治療を提供するのは紛れもなく医師であるため、何か不可解な点などがあれば納得のいくまで説明を求めめる姿勢が大事だと私は考えています。

「事実の半減期」という概念はご存じでしょうか。それは「今事実とされているもののうち、半分が事実でなかったと判断するまでの時間」を指します。医学に限らず、あらゆる事象においてこの概念は存在しますが、医学に関する半減期は一説に約7年間と言われています。すなわち、7年後には半分、14年後には4分の1、21年後には8分の1しか現代の医学知識で「正しい」とされるものは残らないことを意味します。

「我々は何を『信じる』べきなのか」
 高等学校までの学校教育課程では「ポジティブケイバビリティ(答えのある事象に早く答えを出す力)」が重視されますが、私たちの生きる現実世界では絶対的な答えがないことも多く、「ネガティブケイバビリティ(答えの出ない事象に、答えを急がず耐える力)」の重要性がより一層強調されます。

「正しい」医療を享受するためには、強いエビデンスに富んだ標準治療を参考に、医師の説明を納得するまで聞くことが重要とお伝えしました。しかしながら、実はエビデンスには落とし穴があります。それは食品と同じように「賞味期限」があることです。

医療に限った話ではありませんが、他の意見に安易に飛びつかず自分自身で考え抜き、心から納得できる答えを出す事が一番大事なのではないでしょうか。私も日々苦心しながら、そのような心構えと信念を持ちつつ勉学に臨み、臨床に動んでおります。どうか、皆様の参考の一助になれば幸甚に存じます。(迄)

供養盆踊り



8月31日(土)、検診センター前駐車場にて、宇佐高田医師会病院 供養盆踊りを行いました。

伏田・日足・宇佐中央地区の皆様には、口説き・太鼓・踊り、会場の準備・片付け等にご協力頂き、誠に有難うございました。

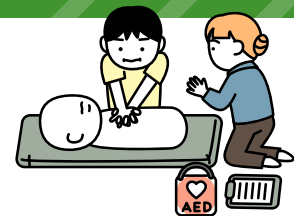


19時より、時枝理事長、柏木院長から没故者・ご遺族の方々へ追悼の意が表され、参加者全員で黙祷を行った後、供養盆踊りが始まりました。地区の皆様が竹灯籠を設置して下さり、とても幻想的な雰囲気の中、大きな踊りの輪ができました。また、縁日コーナーやアイスクリームなどの出店、景品抽選会も好評でした。

台風の影響が心配されましたが、晴天の下、地域の皆様にも多くのご参加を頂き、盛況のうちに無事終了することができました。大変良い供養を行うことができましたことを感謝申し上げます。



小学校でBLS講習会



7月3日(水)系口小学校にて、4日(木)安心院小学校にてBLS講習会を行いました。

講師は当院のICLSインストラクターで、児童、保護者、教職員の皆様を対象に、胸骨圧迫やAEDの使用について指導させて頂きました。多くの方のご参加を頂き、皆様熱心に取り組んでおられました。

今後も講習会等の活動を継続し、地域医療に貢献できるよう努めて参ります。



BLS … 心停止または呼吸停止に対する一次救命処置

ICLS … 急に病状が変わるなどして心臓が止まった方に対し病院で行う蘇生法

大分県緩和ケア研究会県北支部会発表

7月13日（土）中津市民病院にて、第20回大分県緩和ケア研究会県北支部会が行われ、当院からは三丸看護師が発表しました。



「ACPを活用した意思決定支援
～他職種で一丸となり叶えた在宅への移行～」
4階病棟看護師 三丸 恵

車椅子を寄贈していただきました

6月11日（火）、東洋羽毛工業株式会社様より車椅子を寄贈していただきました。

職員一同、温かいご厚意に対しまして心より感謝申し上げます。
患者様のために大切に使用させていただきます。



ご意見いただきました

令和6年5月～6月のご意見分より抜粋

ご意見 ①

障がい者用の駐車場に車を停められなくて2階の駐車場に停めました。普段でも息切れがするのに2階から歩くと大変なので障がい者用の駐車枠を増やすことはできませんか？

お答え… ご迷惑をお掛けして申し訳ございません。調査した結果、対象者以外の方が利用している場合があります。職員が巡回し、車の移動の声掛けを行っていきます。8月24日に障がい者用駐車場を2台から3台へ増やしました。

ご意見 ②

4人部屋の廊下側にいましたが、プライバシー確保の意味で職員さんの退出時にカーテンを閉めるのを徹底してもらえると助かります。

お答え… 職員の対応により不快な思いをさせてしまい申し訳ございません。患者さまのプライバシー確保のため、退出時には必ずカーテンを締めるように職員へ指導いたしました。

ご意見 ③

尿検査のトイレが和式なので使いにくい。足が不自由なので体勢がとりにくかった。

お答え… 患者さまへの配慮が足りずに申し訳ございませんでした。患者さまに確認し、必要な方は洋式トイレでの尿検査をご案内致します。いつでもお声かけ下さい。

ご意見 ④

外来の医師の対応が悪かった。医師の名前は崩し字で読めません。受診の時医師の対応で大変心が折れました。ひどく戸惑い、怒り、不安、そのまま帰ろうかとも思い心痛の複雑な気持ちでそのまま検査となりました。看護師さんはじめ皆さん大変優しいけど外来の先生は何かありませんか？

お答え… このほどは、医師の対応で不快な思いをされたこと誠に申し訳ございませんでした。当該医師には接遇について改めて指導致しました。今後このような事がないように接遇対応につとめて参ります。貴重なご意見ありがとうございました。

ご意見 ⑤

入院中エアコンの音が気になります。

お答え… ご意見ありがとうございました。専門の業者へ点検を依頼し対応させていただきます。また清掃により改善する場合は、スポットでの清掃対応をさせていただきます。またお部屋の移動等をご希望の場合は、お近くの職員にお声掛け下さいますようお願い申し上げます。

ご意見 ⑥

音・照明が気になる。廊下での職員の会話が良く聞こえる。

お答え… ご意見ありがとうございました。廊下での職員の声に注意するよう指導致しました。大変申し訳ございませんでした。音や照明についても気になる点がありましたら職員へお声かけ下さいますようお願い致します。

※ご意見は、要約して掲載させていただいております。
ご了承下さい。

ご意見ありがとうございました。 文責 業務サービス改善委員会

外来担当医師一覧表

時間帯	科 別	月	火	水	木	金	土
午 前	循 環 器	陣 林	田 原 卯 野	陣 林 (ペースメーカー)	卯 野	田 原 陣 林	—
	外 科	村 上	柏 木	蔵 田	江 上	柏 木	—
	消 化 器	濱 野	岡 嶋	岡 嶋	岡 嶋	濱 野	—
	呼 吸 器	—	升 井	—	—	西 山	—
	血 液 内 科	本 田	—	—	—	—	—
午 後	循 環 器	—	—	伊 藤	近 藤 (心カテ検査)	—	—
	外 科	—	—	—	(乳腺検査)	—	—
	呼 吸 器	—	升 井	—	—	—	—
	腎 臓 内 科	宗像(第2・第4)	—	—	—	有馬(第1・第3)	—
	血 液 内 科	—	—	—	中山(第2・第4)	—	—

	氏 名	専 門 領 域	氏 名	専 門 領 域
循環器科	陣林 伯男	循環器 内科一般	柏木 孝仁	消化器外科 下肢静脈瘤 外科一般
	卯野 明大	循環器 内科一般	村上 光彦	消化器外科 外科一般
	近藤 克洋(非常勤)	循環器科一般	江上 拓哉	消化器外科 外科一般
	田原 功道(非常勤)	循環器 内科一般	蔵田 伸明	消化器外科 外科一般
	伊藤 達郎(非常勤)	循環器 内科一般	升井 亮介(非常勤)	呼吸器内科
地域枠	加藤 京	循環器科一般	西山 譲幾(非常勤)	呼吸器内科
消化器科	岡嶋 智也	消化器科一般	有馬 誠(非常勤)	腎臓内科一般
	濱野 朋恵	消化器科一般	宗像さやか(非常勤)	腎臓内科一般
血液内科	中山 俊之(非常勤)	血液内科 内科一般	首藤利英子	画像診断
	本田 周平(非常勤)	血液内科 内科一般		

●外来受付時間

午前8:30~11:00 (午後の特殊外来は、午後3:00まで受付)
 予約の患者様が優先になります。ただし、急患はこの限りではありません。
 ※当病院は、原則として紹介状が必要です。

●診療時間

午前9:00~12:00/午後1:00~4:00

●休診日

土曜日午後、日曜日、祝日、年末年始(12/30~1/3)

●予約受付時間

平日 午後2:00~5:00

編集後記

表紙は8月31日(土)に行われました供養盆踊りの様子です。
 コロナ禍で中止が続いていましたが、今年は5年振りに行うことができました。
 大変良い供養を行うことができましたことを感謝申し上げます。
 来年も多くの皆様のご参加とご協力を頂きますよう、宜しく願い申し上げます。

ぬくもり No.74 2024年10月18日発行

宇佐高田医師会病院

〒872-0102 大分県宇佐市大字南宇佐635
 TEL 0978-37-2300(代) FAX 0978-37-2307

ホームページ <http://www.utihp.jp/>

これまでの広報誌「ぬくもり」もホームページで閲覧できます。



- 地域医療支援病院
- 紹介受診重点医療機関
- (財)日本医療機能評価機構 認定 (機能種別版評価項目3rdG:Ver. 2.0)
- 第2次救急指定医療機関
- 災害拠点病院(大分DMAT指定病院)
- 僻地医療拠点病院・大分県HIV診療協力病院
- 第2種感染症指定医療機関(SARS初療機関)
- 大分県重症難病患者医療ネットワーク基幹協力病院
- 協力型臨床研修病院
- 循環器専門医研修関連施設
- 日本外科学会外科専門医制度関連施設
- NST稼働施設認定病院
- 下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施施設
- 第一種協定医療機関・第二種協定指定医療機関
- 結核指定医療機関